

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・ 出入りに関しての様子からみると、一日の団体客数、乗降客の動きは下げ止まっている。ただ、まだ沖縄方面、あるいは海外旅行の人气があり、北海道観光には団体客を中心に依然として厳しい状況である。
		スーパー（店長）	・ 8月は別として、6月以降、右肩上がりに販売量が増えてきている。
		コンビニ（店長）	・ 店舗周辺で、ビルの建設をはじめとした工事現場が増えてきており、通常の常連客に加えて、工事現場の作業員の来客がしばらくは見込めるため、来客数、単価とも増加する。
		衣料品専門店（店員）	・ 猛暑だったためか秋物衣類に対してやや買い控えの傾向があったが、最近になって、今後の入荷商品に関する問合せや、予約が増えてきている。
		乗用車販売店（役員）	・ 自動車販売の動きは鈍いものの、農漁業の良い話を聞いている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・ 猛暑の後は体調がすぐれない人が増えると言われているので、業種的に期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・ 観楓会を控え、個人・団体客の予約が好調に推移しており、このまま推移すれば前年と同様の水準が維持できる。
		通信会社（企画担当）	・ 電子マネー対応の機種など、新商品の登場により、携帯電話の日用品化がより進む。
	設計事務所（所長）	・ 建物の新築情報や、それに先立つ土地の売買情報が若干増えてきている。	
	変わらない	商店街（代表者）	・ 天気の影響や一過性のイベントなどで売上の変動があっても、安定した景気浮揚要因がなく、トレンドは変わらない。
		商店街（代表者）	・ 今のところ、冬素材のものが先に出ている感もあるが、12月に入り本格的な防寒商戦となった時に主力となるコートのトレンド、売筋がみえてこないのでもまだ何とも言えない状態である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ ここ数か月の売上をみると、そう大きな変動はないと思われる。
		百貨店（売場主任）	・ 9月に入っても残暑で秋物の動きが今ひとつ伸びていない。こうした状況の中で、冬物の動きに切り替わることになるので、動きが読めない。
		百貨店（売場主任）	・ 百貨店業界は、かなりの売上高が天候により左右されるが、長期予報をみても、今のところ、秋の深まり感は急速に出てくるという予報ではない。
百貨店（担当者）		・ 高温で季節商品が不振である。一方、台風を特殊要因として売上が伸びた商品もあるが、全体の売上は前年を割っており、明るい兆しがみられない。	
	百貨店（販売促進担当）	・ 来店客数、販売量ともに3か月前よりはわずかに良くなっているものの、目立った好材料はなく、依然として厳しい状況が予想される。	
	コンビニ（エリア担当）	・ 客の買上個数に大きな変化がない反面、低価格商品に対する志向は依然として強く、景気回復の実感が無い。	
	コンビニ（エリア担当）	・ 企業業績はやや上向きであると思われるが、内部改善によっての上向きであり、実際の雇用や賃金にはなかなか跳ね返らないので、消費は増加しない。	
	高級レストラン（スタッフ）	・ 企業の利用増加は数少ない明るい兆しである。また新しい内閣は北海道布陣とも思えるので、これをきっかけに景気回復を期待する。	
	観光型ホテル（経営者）	・ 緩やかに景気回復している大都市圏からの客の動向をみると、例えば消費性向のような、一つの方向を見ているのではなく、多方向を向いている。わがままさ、解き放たれたような奔放さ等、混沌が随所に見られる。何らかの景気動向の過渡期のような感じを受ける。	
	旅行代理店（従業員）	・ 良くなる兆しが見受けられない。国内旅行についても一時の勢いがあまりない。海外旅行もまずまずの線だが、総合的に大きな勢いとはなっていない。	
	旅行代理店（従業員）	・ 回復基調にあった海外旅行の勢いが失速気味である。	
	旅行代理店（従業員）	・ 取扱額が回復してこない。	
旅行代理店（従業員）	・ 熟年層の動きが増えてきており、10月以降も継続していけば良くなる。		

		タクシー運転手	・年末の繁忙期には大いに期待するが、天候に左右される業種でもあり、何とも言えない。ただし、ここ数年の流れから年末繁忙期といえども楽観はできない。
		観光名所（職員）	・タクシーの様子をいつも注意深く見ているが、依然として空車が目立っている。
		美容室（経営者）	・支出に関してかなり慎重な様子が見られるため、今後もあまり変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・株式市場、消費動向が今一步の感があり、住宅もなかなか上昇気流に乗れない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・金利の上昇がポイントではあるが、客の動向が活発になる要因がない。
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・今月上旬に上陸した台風は、過去最大級の被害を及ぼしたが、市場ではまだ本格的な影響はさほどみられない。消費も安定しているが、台風による被害の修繕、農作物の未収穫に加えて、原油価格の上昇によるガソリン・灯油の値上がり等、マイナス要因が多く、これらが北海道の冬を圧迫することは確実である。
		スーパー（店長）	・景況感は改善の兆しが見られるものの、小売現場では日々の客の動向が、天候、競合店の販促状況、社内のプロモーションで大きく左右されるため、不透明感は否めない。9月は例年のない気温の高さが商品動向に大きく影響を与えており、秋物が全く低迷している。今後気温が低下しても消化は困難な状況である。
		スーパー（企画担当）	・原油価格の高騰の影響は、資材関係にとどまらず、灯油、電力料金等の生活関連支出にも及ぶことが予想され、この冬の企業や家計に対する圧迫が懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・気温が高かったために、漁業、特にさけ・ますの関係が悪い。また地元の基幹産業で今後良くなる見込みの業種が全くない。炭鉱の失業者に対する政策も今年一杯で終わり、今後消費に出てくるお金がどんどんと少なくなっていく。今後の回復は見込めない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が出て間もないが、すでに効果が薄くなり始めている状況であり、今後期待が持てない。
		乗用車販売店（従業員）	・昨年と比べて、販売台数はかなり苦戦した。これから冬になるため、かなり厳しい状態になりそうである。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・灯油・重油など、暖房用の燃料および運送用の軽油の高騰により、企業及び家庭の固定費が圧迫される。
		一般レストラン（スタッフ）	・原油価格高騰の影響でガソリン・灯油が値上がりしていることに加えて、石油を原料としたビニール袋・フードバック等が10月1日から10%程度値上げになるとの連絡が納入業者からあるなど、経費が増加しそうであるが、価格に転嫁できる状況ではない。
		タクシー運転手	・釧路はこれから本格的な秋のサンマ・サケ漁のシーズンとなるが、今年は水温が高いため、不漁の見込みが出ており、今まで以上に街の活気がなくなる。
		タクシー運転手	・市内の有力な百貨店の閉鎖・撤退の話があり、全体的に景気が良くなる見通しが無い。また台風の影響で市内の山野がすでに11月末のような感じになっていて、紅葉を見に出かける人もない。
	悪くなる	衣料品専門店（店長）	・北海道は、これから農村の収穫期に入るが、台風の影響で農業関係被害が非常に大きいので、全体としては悪くなる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・企業の収益が改善しており、それに伴ってボーナスの水準も高くなると予想されるので、年末商戦が昨年以上に活発化する。
		家具製造業（経営者）	・買い控えの心理が景気の浮揚に伴い好転している。
		輸送業（支店長）	・建設資材・鋼材等の荷動きも、あと2～3か月先までは現在の流れで引っ張っていける。また農産物等の季節商品もこの時期に動くため、現状を維持できる。
		輸送業（営業担当）	・農産物の保管寄託数量の増加、紙パルプ工場の増産計画等があるものの、原油高騰の影響で配船調整が行われることが心配される。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・先週末の会議で各地の状況を聞いたところ、お盆明けから少し発注が停滞していたが、秋に向かって未発注分が出てくるという情報がある。	

	変わらない	通信業（営業担当）	・ここ半年程度、景況感として上昇しているという感触を、客の言動や周囲の状況から得ていたが、これ以上、景況感が浮上するための材料が見当たらず、良い意味での横ばいが続くとの印象を受ける。
		金融業（企画担当）	・好調に推移してきた家電製品の売行きの一巡や、台風被害もあり、個人消費は弱い動きが続くものとみられる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・企業間格差が強まっており、全体的にはプラスマイナスゼロで推移する。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	建設業（経営者）	・今年度の受注はほぼ一巡し、今後は手持ち工事の施工に限定される。公共工事の受注が大幅に落ち込みそうで、民間も相変わらず厳しい。
		司法書士	・公共土木建築業者の受注は一昨年の3分の1以下にも満たず、台風でも来て暴れてくれなければと風頼みしているような状態であり、このままでは会社整理、倒産も年末にかけて増加しそうだ。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・製造業の求人の増加がまだまだ続きそうな気配があり、他業種も全般的に求人数が増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ほぼ全ての業種で求人件数が昨年を上回っている。正社員求人はそれ程期待できないものの、非正社員系の求人はまだまだ伸びそうである。
		職業安定所（職員）	・パート求人が3割を超えるものの、新規求人は増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・登録者数が昨年に比べ低迷している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・これから求人件数が大幅に増加するための具体的要因が現在のところ見当たらず、現状で推移する。
		職業安定所（職員）	・管内の主要産業である建設業の求人が減少している。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ライン作業的な期間従業員・請負募集については、相変わらず、かげりもないが、その他の一般募集は春先に比べて下降傾向にある。
	悪くなる	-	-